

20年ぶりに雪国を襲った豪雪

—平成18年豪雪—

雪氷防災研究センター 任期付研究員 山口 悟



今冬は全国的に近年まれに見る大雪となり、『平成18年豪雪』と気象庁から命名されました。この豪雪に伴う雪氷災害で亡くなった方は151名、負傷者は2000名以上（消防庁しらべ）にも達しました。

雪氷災害というと寒い地域だけの問題と思いがちかもしれませんが、実はそうではありません。平成18年豪雪による雪氷災害は、北は北海道、南は山口県まで全国各地で起こりました(図1)。

平成18年豪雪による雪氷災害

平成18年豪雪による雪氷災害の大きな特徴は、屋根雪等の除雪による事故の犠牲者が全体の7割以上(112名)を

占めていたことです。また屋根等からの落雪によって20名の方が犠牲となりました。雪になじみのない方は、“雪ってそんなに重いのか？”“雪が当たったくらいで怪我をするのか？”と疑問をもたれるかもしれません。確かに降ってきたばかりの雪は軽くやわらかいものですが、それが降り積もるとしまして非常に重く硬い雪になります。図2は、私たちの研究所が観測を行っている新潟県長岡市半蔵金の田代集落における今冬の積雪深と積雪の重さ(積雪重量)の測定結果です。今冬は早い時期から多量の降雪があり、真冬のころには1m²あたり1500kg以上の雪が積もりました。このような多量の雪を屋根から下ろさないでそのままにしていると家がつぶ

れてしまいます。今冬は倒壊した家屋の下敷きになって全国で6名の方が亡くなりました。

また雪崩事故も多発しました。秋田県仙北市の乳頭温泉の雪崩(図3)によって、1名が犠牲になったのをはじめ、冬山登山中の方が雪崩に巻き込まれるなど死者・行方不明者併せて15名の犠牲者が出ました。さらに中山間地の集落では、生活に欠かせない重要な道路が雪崩の危険のために通

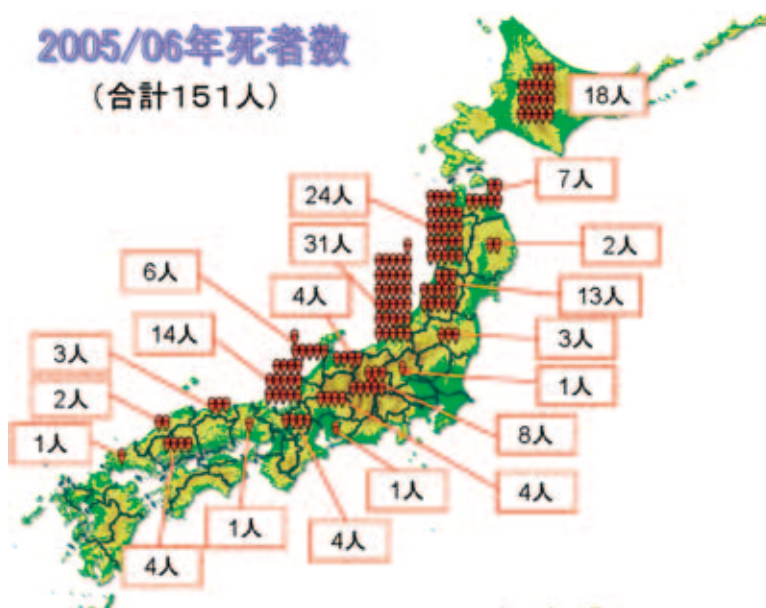


図1 平成18年豪雪による県別被災者数
(今冬の(平成17年12月以降)の雪による被害状況
(消防庁 第61報, H18.4.17)を基に作成)

行止めとなり、多くの住民の生活に影響がでました。

そのほかに新潟県で65万戸、関西で70万戸が停電になったりするなど着雪や倒木による停電が相継ぎました。また列車の運休が相次ぐとともに高速道路や一般の道路も雪崩の危険等のために通行止めになるなど交通機関にも大きな影響が出ました。街中では除雪、排雪が間にあわず、道幅が狭くなり車同士の交差ができなくなったり、歩道が使用できなくなるなど日常の交通にも大きな支障が出ました。

防災科学技術研究所の取り組み

私たちの研究所では、新潟県長岡市にある『雪氷防災研究センター』ならびに山形県新庄市にある『雪氷防災研究センター・新庄支所』が中心となって雪氷災害を軽減するための研究を行っています。今冬は中山間地に設置してある観測点の積雪深等のデータを新潟県地方気象台や新潟県等の関係省庁に提供するとともに、地域住民の除雪等に役立ててもらうためにweb上でリアルタイムにデータの公開を行いました。また、中期計画の成果の一部である雪崩発生予測システムを通行止めとなった国道に適応し、その結果を参考情報として道路管理者に提供いたしました。このようにリアルタイムで役立つ情報を提供するとともに、平成18年豪雪に関する“平成17年度科学研究費補助金

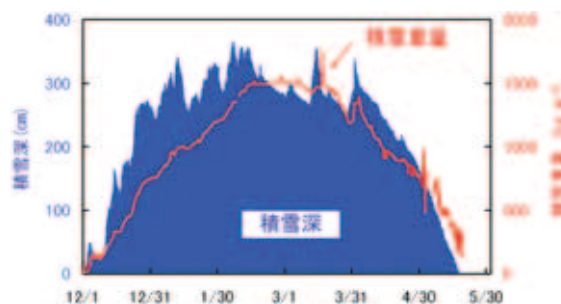


図2 新潟県長岡市半蔵金田代集落における積雪深、積雪重量の変化

(特別研究促進費))”ならびに“科学振興調整費”を他の大学や研究機関と共同で実施することにより、今後の雪氷災害対策に役立つ調査、研究を行いました。

近年暖冬小雪傾向が続いていましたが、今冬のようにひとたび大雪に見舞われると広範囲で長期間にわたってさまざまな災害が発生します。日ごろから雪氷災害に対する備えが重要です。

今冬の詳しい活動内容等は雪氷防災研究センターのweb (<http://www.bosai.go.jp/seppyu/>) でみることができます。



図3 雪崩に埋まった犠牲者の捜索
(2月11日 秋田県仙北市乳頭温泉)